



2013-2014年度

Rotary

2013年10月3日発行 Vol. 1368

クラブ運営方針：愛と感謝と奉仕の心

広島北 ロータリークラブ週報

国際ロータリー会長 ロン D. パートン 氏
国際ロータリーテーマ
ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を
ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

■会長 庄子 佳良 ■幹事 久保 豊年
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530
E-Mail: hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/
例 会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会 2013年10月3日(木) 第2151回
国歌斉唱
ロータリーソング 「奉仕の理想」
来客紹介 ローラー家族親睦委員会
入会式
誕生月お祝い
会長時間
幹事報告
委員会報告等
ニコニコ箱
卓話時間 『有害クラゲと有益クラゲの話』
広島大学
理事・副学長 上 真一 様

前回例報告 2013年9月26日(木) 第2150回

ロータリーソング 「それでこそロータリー」
来客紹介 ローラー家族親睦委員会
会長時間
幹事報告
委員会報告
ニコニコ箱
卓話時間 『広島いのちの電話について』
広島いのちの電話
副理事長・運営委員長 塩山二郎 様
事務局長 藤井 悟 様

会長時間 会長 庄子 佳良

本日は、11時から入会予定者の金井次郎さんをお迎えして、ローラー情報委員会を開催して頂き、ローラーについて説明して頂きました。金井さんには、入会后、自分自身を高めるためにローラーライフをお楽しみ頂きたいと思います。推薦者の坪内会員、三保会員をはじめローラー情報委員会の皆さんには、お忙しい中をご参加いただき心からお礼申し上げます。

さて、本日は卓話の時間に、社会奉仕小委員会の合田委員長が企画されました「広島いのちの電話」への事務用品の贈呈式に、副理事長の塩山二郎様と事務局長の藤井悟様をお迎えしております。贈呈式の後、「広島いのちの電話」についてのお話を伺いますのでよろしくお願い申し上げます。

また、本日は懐かしい友をお迎えしておりますのでご紹介申し上げます。今は退会しておられますが、野球同好会でも未だに写真撮影などでお世話になっております、河手富雄さんです。久々の例会をごゆっくりお過ごしください。

さて先週は、第5回ローラー家族親睦委員会が行われ、「夏の家族会」の会計報告、「祝寿の会」開催の件、そして12月19日開催予定の「冬の家族会」の件などについてご審議いただきました。

神農理事、鈴木委員長を始め親睦委員会の皆様には、いつもクラブ会員のために活発な活動をして頂き心から感謝を申し上げます。また22日には地区米山学友会の事業を行い、東広島RC会員の陶芸家、中屋新平さんの「保田窯」で陶芸教室を開催し、学友会員の家族を含め18名が楽しい一日を過ごしてまいりました。我がクラブのウ・レンキツさんは中国帰省中のため不参加でしたが、日本での良き思い出の一つになったものと思います。

23日には、岩国市民球場において、岩国中央RCの主催する「第19回保田杯」が開催され、親睦、友好を深めるため、山坂監督をはじめ、応援者を含め総勢18名で参加いたしました。結果は第3位でございましたが、和気藹々とした楽しい野球大会でした。また、この日は桑村会員と武部会員にも、公式戦の初デビューを飾っていただきました。これからも頑張っていただきたいと思います。そして、高原会員にも遠路応援に来ていただきましたので御礼申し上げます。会員の皆様も、時間が取れましたら是非とも野球同好会の応援をよろしく願い申し上げます。また、明日は、第25回姉妹クラブ友好継続調印式に京都へ行ってまいります。ご参加の皆様にはよろしくお願い申し上げます。

幹事報告 幹事 久保 豊年

*27日(金)に京都で行われる調印式に参加の皆様は、午前10時に広島駅新幹線口2F改札前にお集まりください。

*10月例会予定表(BOX 配布)

委員会報告

創立45周年 塩本(能)会員

*例会終了後、6Fにおいて総務・式典懇親・記録委員会の正副委員長による会議を行います。

同好会報告

野球同好会 中山会員

*9/23岩国保田杯報告および本日練習中止の案内

ニコニコ箱

ニコニコ委員会

【お客様出宝】

河手富雄様 今日は「いのちの電話」の卓話を聞きに来ました。しっかり勉強して帰ります。

【自主出宝】

庄子会員・泉会員・久保(豊)会員・東会員・越智会員 いのちの電話、副理事長 塩山様、事務局長 藤井様、本日はありがとうございます。卓話よろしく願いします。

三保会員・合田会員・迫会員 広島いのちの電話・塩山副理事長様、藤井事務局長様、例会へのご出席をありがとうございます。しっかりと「広島いのちの電話」の活動について又、存在議について学ばせて頂きたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

クラブ運営方針：愛と感謝と奉仕の心

中山会員・佐々木会員・迫会員・石田会員・岡部会員・渡部会員
ローター財団の年次寄付120ドルを全会員から寄付して頂きました。ご協力頂きまして誠にありがとうございました。

上野会員 潜伏期間2週間。只今肺癌手術から元気で生還しました。少なからず皆様から激励と多額のお見舞いを賜りましたことを厚く御礼申し上げます。とりわけ岩森先生には手術前からインフォームド・コンセント、更に執刀医との技術的なコミュニケーションを図って下さるなど大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

石田会員・三保会員・栗屋会員・迫会員 上野さん、快気おめでとうございます。これからも引き続き体調にご留意され、引き続き上野塾の講師をよろしくお願い致します。

岩森会員・山本(忠)会員・福田会員・岸本会員・中尾会員 上野さん、お元気な姿おめでとうございます。一層の御活躍をお祈りいたします。

山坂会員・山下(正)会員・杉町会員・中山会員・神農会員・庄子会員・久保(豊)会員・山内会員・坪内会員・上河内会員・桑村会員・越智会員・二井本会員・武部会員・吉永会員 秋分の日、第19回保田杯に出場しました。第1試合は昨年ジャンケンで負けた防府RCとの対戦。今年こそはとチーム一丸で戦いましたが、1安打に抑えられ0-7で完敗しました。第2試合は小野田RCとの3位決定戦。先発越智投手大乱調なるも、山内選手のホームラン等で打線が援護、見事9-6で勝利しました。来年は記念すべき20回大会。山坂監督の胴上げを目指し、しっかりと練習して頑張りたいと思います。

山内会員 保田杯・小野田RC戦でローター野球人生初のホームランを打ちました。

二井本会員 保田杯では練習に不参加にかかわらず先発出場させて頂きありがとうございました。ヒットは1本打てましたが不慣れなため監督のサインを見逃しましたので出塁させて頂きます。

杉山会員 先週東児が丘GCのプロアマに参加しました。ベストボール方式で何と14アンダーの快挙。優勝してしまいました！

原田会員 カーブCS進出おめでとう！

久保(豊)会員 うぶ毛が伸びてきました。

久永会員 早退します。

当日計 55,000 円(内、web 20,000 円) 累計 597,000 円

★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=3,000 円 ◇=2,000 円

広島いのちの電話相談室環境改善事業 贈呈式



「広島いのちの電話」
塩山副理事長に目録を手渡し、感謝状を頂きました。

「広島いのちの電話」
相談室に椅子6脚、
机1台、書棚3台を
寄贈しました。



いのちの電話に
備品10点を寄贈
広島北RC
広島市の広島北ロー
タリークラブは26日、
心の悩み相談に応じる
社会福祉法人「広島い
のちの電話」(中区)に
テーブル、椅子、書類棚
の計10点を寄贈した。
南区のホテルで贈呈
式があり、同ロータリ

ークラブの庄子佳良会
長(61)が、同法人の塩
山二郎副理事長(70)に
目録を手渡した。塩山
副理事長は「命を救う
活動に生かしたい」と
感謝していた。
同法人は1988年
に設立。ボランティア
が電話を受ける相談室
では備品の老朽化が進
んでいた。同ロータリ



2013年9月27日(金)中国新聞朝刊掲載

卓話

「広島いのちの電話について」

副理事長 塩山二郎 様



この「いのちの電話」は、1953年にイギリスで発足したボランティアの団体なんです。チャド・バラーという牧師さんが、これは本当に笑うに笑えない出来事のために16歳の少女が自死をした、まあ自殺をしたという、そういうことで、チャド・バラーという英国教会の牧師さんが、これはもう放っておけないということで、このいのちの電話というのを始めたんですね。名称は「ザ・サマリタンズ」という、そういう聖書のなかの「グッド・サマリタン」という、「善きサマリヤ人」というものから取ったというふうになんて

おりますけれども、で、その16歳の少女はなんで死んだのかというのは、女の子の16歳というちょうど初潮が始まるという、そのことを自分が病気になったというふうに思って自死を図ったという、そういうことから発しているんですね。やっぱりその後のことも含めまして、自ら命を断つということをどう防ぐかということから、サリタンズも始まったというふうに、我々は理解しています。

日本にはルツ・ヘットカンフというドイツの女性の宣教師が、1969年に日本にやってきて、やはりこの「いのちの電話」というのをぜひ普及させたいということで始めたんですが、1971年に東京で日本の最初の「いのちの電話」が始まりました。これは「東京いのちの電話」ということで始まったんですけれども、ヘットカンフさんというのはルーテル派の宣教師でしたね。そういう、どうも世界各国のこういういのちの電話の発足に関しては、キリスト者、そういう宗教的なものが関与しているということになります。

広島はですね、全国で「日本いのちの電話連盟」というのができたのが1977年ですけれども、広島はちょっと遅くて1988年、ちょうど今年が創立25周年という記念のときにあたりますけれども、そういうときにこうやって広島いのちの電話を紹介させていただくというの、何か非常に、ご縁だというふうに思っております。1988年に、これもYMCAのなかから発足して、その後ですね、まったくボランティアの人たちが参加しております。

私自身も年に2〜3回、深夜当番というので電話に出るんです。最初に出たときに、本当にショックを受けました。どういうショックかと言うと、日本の、この電話をかけてくる人たちの、あまりにも精神的に、なんていうか、細いというか、ある意味病んでいるというか、そういう、もう本当に日本の社会のなかの底辺と言ってもいいようなところの相談なんですね。そのなかには、もう本当にとんでもない電話がありますね。女性の相談員に、その相談員をからかうような電話、テレホンセックスと言いますけども、そんな電話を受けたり、それからまったく沈黙をして何も語らない無言電話とか、そういうなんか、とんでもないようなものもあれば、本当に深刻に、もう死にたいので電話をかけてきたという、そういう方々もたくさんおられました。

ご承知だと思いますが、日本のこの自殺の統計は、平成10年から平成23年まで3万人を超していました。昨年度、平成24年度は2万7,760人という人数で収まった、といっても2万7千何人です。それくらいですね、皆さん、自分で自分の命を断っているということです。

私はよく比較をするんですけども、リーガロイヤルホテルの33階から見下ろすと、本当にちっぽけな円状の旧広島市民球場ですが、そこがいっぱいになると、3万3,000人ぐらいです。年間、平成23年度までは、その3万人あまりの人が命を落としていたということになります。もう本当に、由々しき問題だというふうに思いますが、それをどうやってなくしていくかという取り組みを、日本いのちの電話連盟自体、関わっていきます。

厚生労働省がこれはもう本当にひどいということで、力を入れたのがいつごろでしょう、平成20年ぐらいだったでしょうか、その「自殺予防いのちの電話」はフリーダイヤルですね。厚生労働省のフリーダイヤルということで、電話をかける人がまったく無料で電話がかけられるという、そういうのを始めました。毎月10日ということなんですが、そういうことも含めまして、われわれいのちの電話の相談員、現在167名の相談員が24時間体制で関わっております。

我々は、その、もう死にたいと言って電話をかけてきた人に対して、どう対応しているかと言うと、その死にたいって、死つていう言葉を恐れることなく、どういうことでしょうねって言って、しっかり話を聞くということを、私たちは心がけています。電話をかけてきた人は、本当にさまざまな状況のなかであって、死にたいっていうふうにおっしゃいますけれども、いろいろ話を聞いたあとで、だいたいこういう返答をしております。あの、お気持ちはわかります

が、こうやって電話をかけてきた、電話をかけておられる、そのこと自体は、生きたいということの思いの表れではないでしょうか、ということ必ず返すように心がけています。つまり、死にたいっていう気持ちはわかりますけれども、電話一本で、この電話をかけてくる、そのこと自体は、生きたいっていうことの表れという、そちらのほうを評価して、一緒になんとか生きていきたいと思います、まあそういった類いのもですね、対応をしております。

私は今、広島県の臨床心理士会の会長をさせていただいておりますけれども、県とか市の、うつ病・自殺対策協議会というのがありまして、そういうところでもいろいろ話をしているわけですが、結局ですね、私が強く思っているのは、誰かとのつながりがあれば、死ななくて済む、ということ強く思います。

本当を言えばですね、私の研究している領域は対人関係なんですけれども、だいたい1歳半、生後1歳半ぐらいのあいだの母子関係がうまくいけばいくほど、赤ん坊のなかに母親が内在化されるという、そういう考え方があるんですけれども、この時期がうまくいけば、まずどんな状況にあっても、希望と信頼を持つことができるので、死ななくて済む、というふうなことを考えます。けれども、どうしても、もう死にたいというふうに言われる方々のなかには、そういう時期の混乱とか、生育歴のなかで、どこかで大きな心の傷というのを抱えておられるということがあります。

ちなみに、夜のですね、深夜の電話に出ておられますと、60%以上、70%ぐらいの方は精神科にかかっておられるという、そういう方々が電話をかけてこられます。もう夜眠れなくて寂しい、誰かと話をしたいのでかけました、いいですかっという、そんな電話が多いですね。で、そういう人の話をしっかり受け止めて聞く。つながっていれば、命を断つことはないということの考えで、私たちは対応しております。

そういうことで、我々の、この「いのちの電話」というのは、全国に50センターありまして、7割ぐらいは24時間体制で相談を受けつけています。ただ、167名、現在の167名では、ちょっと24時間体制は厳しいんです。深夜帯がどうしても誰も出られないというところが、月に1〜2回あります。それをなくそうとみんな努力していますけれども、深夜当番というのはですね、夜の9時から翌朝の8時まで、もちろん仮眠を取ってもいいんですけれども、私、そういうときに出るんです、たまに出るんですけれども、ほとんど休む暇なく、5分間の休憩もないくらいひっきりなしに電話がかかってくるんですね。統計的なことは、あとで藤井事務局長にお願いしますが、それほどですね、やっぱり必要とされているものですね。相談員はまったくのボランティアで対応しております。で、そういうところですので、私たちはできるだけ多くの方々にこの働きを知っていただきたいと思って、今日はご厚意に甘えてやって来ました。言い尽くせませんが、ちょっと広島いのちの電話のお話をさせていただきました。どうもありがとうございました。



事務局長 藤井 悟 様

事務局長の藤井でございます。まず、今回の多大なるご寄付に対しまして、心から御礼を申しあげたいと思います。先般も庄子会長さんをはじめ、役員の皆

さま、たくさんお越しをいただきまして、ご視察をいただきました。殊のほか、合田社会奉仕委員長さんには、もう本当にご尽力を頂きまして、何度もお運びいただくなかで打ち合わせをさせて頂きました。この席を借りまして、心からお礼を申しあげたいと思います。本当にありがとうございました。先ほど写真をご覧いただきましたように、私どもの事務局のなかで、隣接しております、相談室というのがございますけれども、その備品一式を、今回ご寄付をいただいたわけでございます。

クラブ運営方針：愛と感謝と奉仕の心

先ほどもありましたように、開局25周年ということで、当時からの備品がほとんどでございました。なかにはもう本当に椅子も傾いておりましたし、テーブルも本当にガタガタという感じでございました。今回、本当にご新調いただいて、ご寄付をいただいたということに対しましては、本当に167名の相談員、大変に喜んでおります。いっそう業務に現在励んでいるという現状でございます。心からお礼を申し上げたいと思います。

今、運営委員長のほうからいろいろ説明がございましたけれども、本当に昨年度1年間で自殺をされる方が減ったと、3万人を下回ったことは15年振りだそうでございます。それを、もろ手を挙げて喜ぶわけにはいきませんが、まあ少しは私どものいのちの電話が、全国的ないのちの電話が貢献できたかなということは自負しておりますものの、こと広島県に関しましてはどうなんだろうかとということでご覧いただきますと、お手元の資料の5ページでございます。昨年1年間では、約2,800名ぐらいの、自殺で亡くなる方が少なくなったということで喜んできますけれども、逆に昨年1年間の広島県の場合は、これは増えとるんですね。14名(資料では13名)増えとるという統計的なものが出ておりますし、またこの25年度に至りましては、すでに50名近い、昨年に比べて自殺の数が増えております。

いろんなところで、これはなんでなんだろうという、その議論がされているわけでございますけれども、そういう短期的な捉え方でどうのこうのというわけにはまいりませんが、実態としてはそういう実態がございます。今後とも、私ども広島県の、広島いのちの電話はそういうことをよく鑑みながら、またいっそうの努力をしていきたいというふうに考えております。お時間、25分までということでございましたので、残りの2分間で少しお願いを申し上げてみたいと思います。

私どもの相談員といいますのは、先ほどもございましたように、手弁当で、まったくのといひましようか、純粋なボランティアでございます。入局希望をしまして、厳正な審査をするわけですが、受かりました段階で2年間の養成講座を展開いたします。しかもその2年間は自費で7万円の受講料を払って受講いたします。そのうえで、認定という段階で、これは全員の方が認定ということにはならない状況がございますけれども、約8割の方が認定を受けるということで、そのうえで実際の電話相談活動に入るといふ、それだけ厳しい内容を持っております。

電話そのものも、非常にいろんな内容が多岐にわたるわけでございますけれども、ひと言で言いますと、まあ自殺防止ということにはなりますが、だいたいそういう面では、今だいたい2割から3割ぐらいでございまして、いろんな電話がかかってございます。つい先日でもですね、その深夜帯で先ほどお話ししておりましたけれども、深夜帯、明け方でございましょうか、ある方から電話があつて、今から、崖の上にいるんだけど、今から飛び降りるところなんだと。その崖のところに立て札があつたそうでございますね。ちょっと待てという、あの立て札だそうです。

で、そういう方から、その警察署のほうに電話がいったん行つてですね、警察のほうから私どもにご紹介いただいて、その方からの直通電話がかかってですね、相談員も一生懸命対応を、たまたまそのときの相談員がベテランの相談員でございましたので、一生懸命話を聞きながらですね、私どもではその話の聞き方を、傾聴という言葉で表します。聴くというのはみみへんに十四の心と書きますけれども、この心を傾けて聴くという、その方に寄り添った話を聞くということに専念するわけでございますが、その方に寄り添った話をした結果が、いろんな家族の話とか経済的な問題とか、いろんな話が出たそうでございます。

最終的に、もう一度考え直してみる、「ありがとうね」ということで、結果的に自殺を思いとどまっていたいただいたということが、約1時間ちょっとの時間でございましたそうですけれども、そういう非常に重い、厳しい電話もかかってまいります。日夜そういった厳

しい電話を受けながら、なんとか病める方々に寄り添いながら、社会貢献を果たしていこうということで、日夜努力をしているわけでございます。

最後に僭越でございますけれども、資料の最後に、振込用紙がついてございます。大変恐縮でございますが、これが一番のポイントといえばポイントでございますけれども、私どもの運営そのものの全体の8割は、皆さま方の非常に温かいご理解とご寄付によるものでございます。この振込用紙が、その前の前のページに書いてございますけれども、口座名でございますとか、あるいは人とかですね、書いてございますので、何とぞご理解とご支援を今後とも賜りますように、よろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。



■出席報告 出席委員会

2013年9月26日(木) 会員数 84名

出席 70名 欠席 14名

来賓 2名 来客 1名 ゲスト 3名

9月12日例会出席率 100%

■来客紹介 ローター家族親睦委員会

塩山 二郎 様(卓話者)

藤井 悟 様(卓話者)

橋本 宗利 様(広島)

金井 二郎 様(入会予定者)

河手 富雄 様(元会員)

于 廉吉 様(米山奨学生)

■次回例会 2013年10月10日(木)

卓話 「これからのローターの職業奉仕のあり方について」

職業奉仕委員会担当

食事 洋食